

商品のご紹介

自分で磨けるようになるためのトレーニングタフトブラシ

お口にやさしく

楽しみながらトレーニング

握る、口にモノを入れる習慣が出来たら、次にハブラシの感覚に慣れさせ、お母さんのハミガキのマネをして動かす練習をしましょう。

にぎりやすい
ハンドル



毛先の感覚に
慣れる練習

のどを突き
にくいリング



1才半～6才用ハブラシ(ピンク・ブルー)

歯のみがき方

自分でみがく習慣をスタートさせましょう。どんな持ち方でも使いやすい歯科推奨のストレートハンドル。耐久性と弾力性の高いハブラシでしっかりとみがくことができます。



毛先を歯に確実にあて、
小さく往復運動させる



上下の歯を「イーツ」とかみ合せ、
まるを連続してかくようにみがく



歯と歯の間・生えかけの歯の場合、
ハブラシをたてにあててみがく

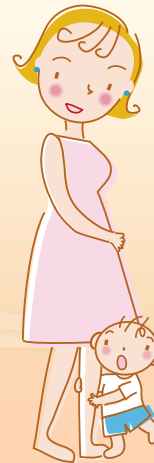


ハブラシを横から使う

育児期 Child Care

幼児期の時期

乳歯が生えそろう頃からの ★ ★ 幼児のお口のケア



未来の赤ちゃんのために

サンスターと
はじめる
赤ちゃんからの
正しい歯ケア



—0才からのオーラルケア

幼児期 Child Care 「自分でみがく = 自立心をサポートする」セルフケアシリーズです。

こどもに教える歯みがき習慣

歯のアイコン ハブラシの感覚に慣れさせましょう。

乳歯が生えそろってきたら、パパやママをはじめ家族が歯みがきをしている姿を見せてあげましょう。トレーニング用のハブラシを与え、ハブラシの感覚に慣れさせましょう。

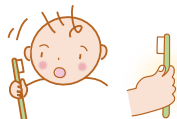
歯のアイコン 正しい歯みがきの方法を教えてあげましょう

歯みがきは、お箸やペン、はさみなどを使うのと同じく指を使ってみがくもの。指を使うとハブラシの毛先が動く感覚がよく伝わり、丁寧にみがけるようになります。歯みがきは腕の力でみがくのではなく、指を使ってみがくということを教えてあげましょう。

★ こどもに教えてあげたいハブラシの持ち方

基本はペンを持つような方法です。

グーの手でグリップを握る持ち方は、腕の力がハブラシにかかってしまい細かなところまでみがけません。ただ、小さな子どもは力が弱いので、最初のうちは握るような持ち方でもよいでしょう。



1. こんにはの持ち方

握る持ち方。子どもが持ちやすい。
下の歯の噛み合わせなどは、ハブラシの下に親指をあててしっかり握って下さい。



2. さよならの持ち方

ハブラシを縦にしてグリップの背中に親指を当てる持ち方。
上の歯の噛み合わせもみがきやすい。

パパやママが見本をみせてあげましょう。

歯のアイコン 力の入れ方のポイント

腕の力ではなく指を使ってみがくことを教えてあげます。
「歯みがきは指を使ってみがく」というイメージを持つことで、力の入れ方も軽くなります。どうしても力が入りやすいので、軽く持つように教えましょう。

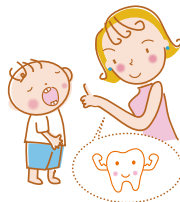
歯のアイコン みがき方のポイント

腕の力ではなく指を使ってみがくことを教えてあげます。
パパやママが見本をみせてあげましょう。
「歯みがきは指を使ってみがく」というイメージを持つことで、力の入れ方も軽くなります。どうしても力が入りやすいので、軽く持つように教えましょう。



- ★ 前歯…ハブラシをたてに入れてみがく。
- ★ 歯とハガキの間…ハブラシを斜めに当て(45°)、小刻みに振動させながら動かす。
- ★ 奥歯…ハブラシを横から入れて1本ずつ毛先をしっかりと当ててみがく。

歯のアイコン できたら褒めてあげましょう



子どもは遊びの中からさまざまなことを学んでいきます。
歯みがきも、まずは遊び感覚から始めましょう。
無理じいや口出しはぐっと我慢。
歯みがきができたら、しっかり褒めてあげましょう。
子どもは歯みがきをして褒められることで、歯みがきに対して良いイメージを持つようになります。